

大学から始まる健康情報の利活用実現に 向けた産学連携の取り組み

2018年3月16日

株式会社ヘルステック研究所

目指す事業の姿

個人、各組織がバラバラに保有している健康・医療情報を 個人が保有し、自分の意思で活用できる社会の実現

現状

病院学

企業健保

行政





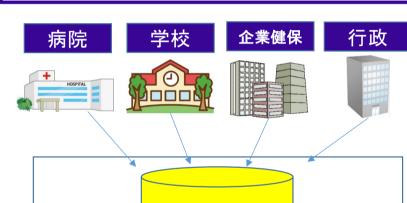


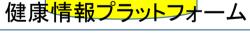


- ●個人へのフィードバックはほとんどは紙ベース ●元データは各組織が保有
- ●電子的保管は進んでおらず情報がバラバラ



目指す姿













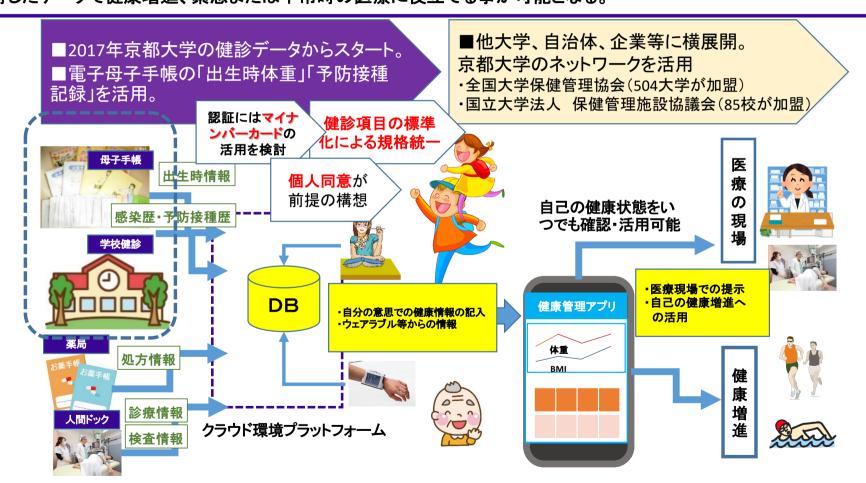


ゆりかごから墓場まで。健康で幸せな社会。 「データを活用したセルフケア」の実現

当プロジェクトが考えるPHRの実現構想

あるべきセルフケア・メディケーションの姿:個人が自分の健康情報を活用

健康診断データ、治療履歴や投薬情報等、自分の健康・医療情報をいつでも確認・活用可能。 自分で保持したデータで健康増進、緊急または平常時の医療に役立てる事が可能となる。



構想はいいけど、PHRのデータ管理はコストがかかる。

たくさんのデータを集めようとすると更にコストがかかる・・・・

継続してデータを安全に管理するための会社をつくろう。

サーバーなど維持管理にかかるコストは独立採算で賄おう。

⇒株式会社ヘルステック研究所の設立



株式会社ヘルステック研究所会社概要・沿革・実績

【社名】 株式会社ヘルステック研究所

【本社】 京都市左京区吉田本町 京都大学国際科学イノベーション棟

【恵比寿ラボ】 東京都渋谷区広尾1-3-18 広尾オフィビル11階

【設立】 2017年3月 【代表】 阿部達也

【沿革】 2016年7月 ・京大データヘルス研究会発足。京大健康科学センターと事務局を運営 (リクルートHD、第一生命、キヤノンMJ、オムロンHC、メドピア、NTTデータ関西、京都市)

2017年3月 ·PHR実現のための事業会社として株式会社ヘルステック研究所設立

2017年4月 ·AMEDの分担研究機関としての活動を開始。分担研究開発課題名は

「PHRとしての電子母子健康情報と学生健康診断情報の連結に関する認証システム、PKI、DB構築の研究」大学健診PHRアプリケーションを開発

2017年7月 ・株式会社ヘルステック研究所 東京恵比寿ラボ開設

・京大データヘルス研究会に日本航空社、サンスター社が参画

2017年9月 ・京都大学との共同研究契約を締結。研究課題名は

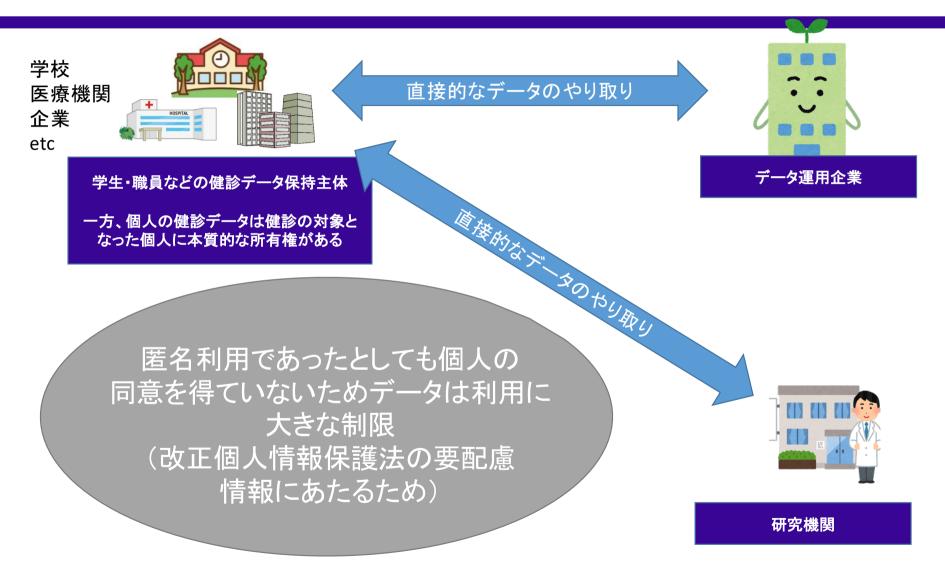
「学生健診を基盤とした共有型ライフロングPHRの構築と利活用促進のため

標準化モデル創出に関する研究」

2018年1月 ・京都大学 石見拓教授が社外取締役に就任(無給。金銭的利益相反なし)

HealthTech.Lab

他機関の取り組みでは個人同意を得ていない



ヘルステック研究所が目指す事業の仕組み(PHRとは)

学校 ヘルステック 研究所 HealthTech.Lab のやり取り 直接的なる 医療機関 企業 etc より良いPHRサービス (株)ヘルステック研究所:HTK 同意を得た、学生・教職員の健診データ 学生・職員などの健診データ保持主体 一方、個人の健診データは健診の対象と なった個人に本質的な所有権がある 研究利用への同意 同 が得られれば、研 究活用。 研 究 還元 C. 健康管理アプリ D.個人で同意し研究へのデータ提供 京都大学 健康科学センター 研究成果の還元 学生・職員の健診データ(個人) 疫学、大学保健のエキスパート 所有者:健診の対象となった個人 データを活かしたFB

競合プロジェクトのマッピング図

本人同意あり

研究

東北メガバンク

莫大な予算をかけているが永続性がない。 (国の予算は最長10年程度が限界)

長浜コホート

エリアと人数が 限定的

本人同意な

一般社団法人 健康·医療·教育情報評価推進機構(HCEI)

東京大学による健康データサイト

ビジネス



- ●個人同意取得データ
- ●改正個人情報保護法に対応
- ●事業化による永続性

(株)日本医療データセンター

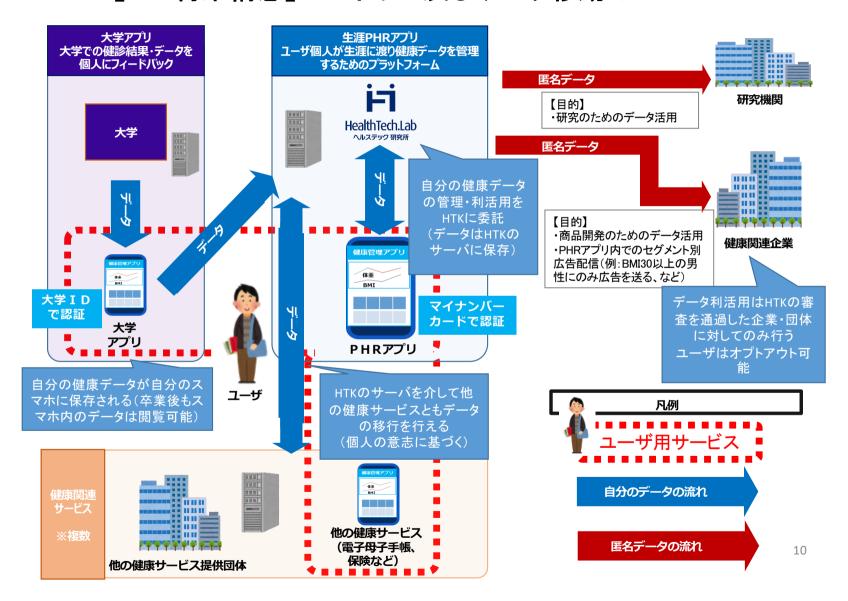
リアルワールドデータ(株)

(株)学校情報健診センター

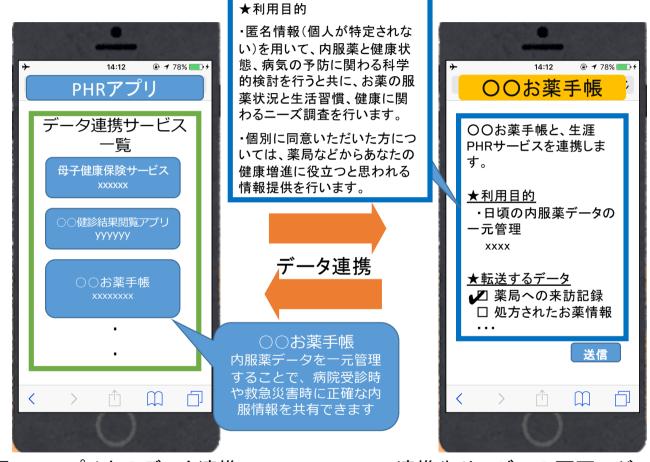
レセプトデータ所有企業では業界2位。 しかし健康保険組合から有料購入し高 いコストをかけている。かつ医学的な知 見は強くない。データクリーニング的なビ ジネスに留まる。

既存のビッグデータを活用しようとしているが、同意取得をしていない。 本来の目的と異なるために利活用が限 定的。改正個人情報保護法に抵触する 可能性もある。

【PHR将来構想】プレイヤー及びデータ移動のプロセス



連携サービスとのデータ授受の同意プロセスイメージ



1. 生涯PHRアプリ内のデータ連携 サービス一覧から、生涯PHRサービス へ移行したいデータベースを選択 2. 連携先サービスの画面へジャンプし、 説明を読んだ上で、連携したいデータ項 目を選択すると、データが連携される

まずは大学からスタートとして、国民全体に拡大していく!

ユーザ獲得戦略



大学生 教職員 大学健診 アプリ 生涯健康 アプリ (PHR)

行政(京都市ほか)

企業健診

薬局 etc



- 「健診」
- ・アプリアイコン





京都大学 健康診断結果

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

母子手帳情報

2017年度 健康診断結果

身長:170.2cm

<u>体重</u>: 62.5kg

BMI: 22.1

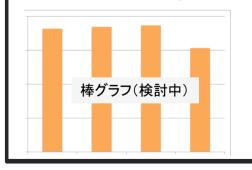
健康診断結果 <体重>

2017年: 62.5kg

2016年: 60.1kg

2015年: 62.8kg

2014年: 63.9kg



大学アプリサービスイメージ:大学管理画面イメージ



各大学にヒヤリングしたところ、大学健診アプリを利用した健診結果の閲覧も大切だけど、 大変なのは健診当日だったり、 その後のデータ管理だったり・・・・

とはいえ大学の保健管理部門は人数も多くないし、予算もあまりないし・・・・

大学健診プラットフォーム

Commons for University

皆で共通利用ができるプラット フォームサービスを開発

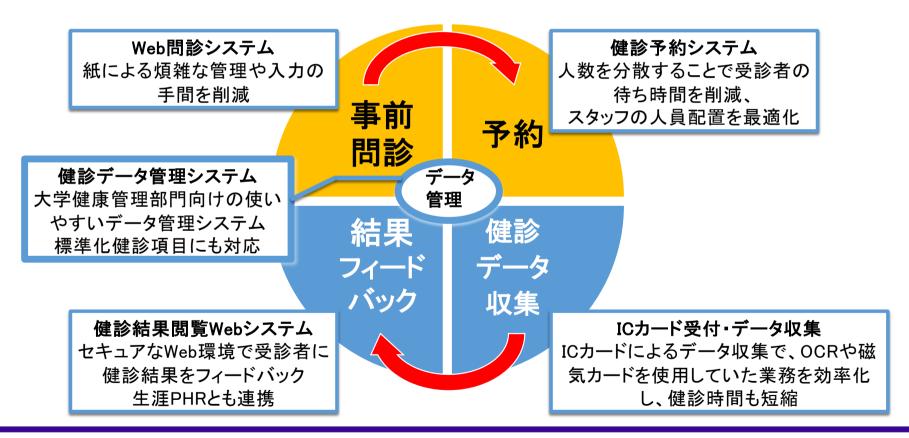


大学健診プラットフォーム | Commons for University とは?

- ●京都大学健康科学センターの協力を得て、株式会社ヘルステック研究所が開発する 大学の健康管理部門向けのシステムを集めた総合プラットフォームサービスです。
- ●全国の大学保健グループのコンセンサスによる『標準化された健診項目』を取り入れ た日本で唯一のサービスです。標準化項目への対応を適宜行います。
- ●WEBベースでの管理者画面
- ●ヘルステック研究所は京大発の研究系・開発系のベンチャー企業であり、京都大学健康科学センターの健診システム開発・運用の知見を活用します。

Commons for University シリーズ概要

健診業務のプロセスごとにパッケージを開発しており、業務の効率化・最適化をはかれます。



1-4. 5カ年のサービス展開計画概要

2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 京大 10大学程度での利用 30大学程度での利 5大学程度での利用 京大 京大 用開始 50人での実証実験 開始 学生1000人 学生/職員 開始 導入大学から 開発費3000万円調達済み(AMED) 実費負担 導入大学から 導入大学から 大学健康管理 実費負担 実費負担 各大学への実サービス展開に向けて 汎用サービス ユーザ(学生/教職員)&大学健康管理部門向け機能改善 (大学健診アプリ) サービスインのための サービスイン 実証実験 大学·企業·自治体·個人他 健康データバンク 広告ビジネスを 広告モデルを サービス 実証実験・サービス開発 (生涯健康アプリ) 導入予定 拡大

大学発ベンチャーとして大学保健管理の知見を 起点としたPHRサービスを通じて国民の健康増 進に貢献していく所存でございます。

ご清聴ありがとうございました!